

宮城県児童自立支援施設における 支援の現状と課題

～事例から見る施設内支援～

さわらび学園 技術主査 吉野舞

「児童自立支援施設」には、
～な子どもが入所している。

①入所児童の特徴

②「問題」行動の構造を捉える

③生活の場が変化することの意味

④育ちの場として生活を形作ることの大切さ

①入所児童の特徴

「不良行為をなし、又はなすおそれのある児童
及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童」

- 児童自立支援施設入所に至る子ども＝マイノリティー中のマイノリティー
- 非行進度よりも、家族の問題の影響が色濃い
- 入所児童の大半は養育者からなんらかの虐待を受けている
- 少年院(矯正)と異なり、育てなおしが必要と判断された子どもたち
- 発達の偏り～未診断だが発達障害圏の特徴のある子どもも

②「問題」行動の構造

【表立った問題行動】

- ・暴力
- ・暴言
- ・家出
- ・深夜徘徊
- ・万引き
- ・性加害
- ・性被害など

【背景にある要因】

【家族の問題】

- ・虐待
- ・夫婦間～親子間のDV
- ・養育者の病気・離婚・自殺
- ・貧困
- ・【子育ての困難さ】
- ・子どもの発達障害
- ・地域からの孤立
- ・子育て協力者の不在

③生活の場が変化することの意味

【さわらび学園に入所することの受け止め】

子どもの思い	家族の思い
「親に入れられた」 「おれは変わらない」 「周りは自分がいなくなってよかったと思ってる」 「私が悪いからしょうがない」	「治ってほしい」 「あなたがよくなったら また一緒に暮らしたい」
自己肯定感の低さ 自己変容への不安 見捨てられ不安の強まり 離れて感じる家族への思慕	目前の問題から離れられる安堵感 子どもの成長への期待と不安 施設任せの養育

もつれた家族関係を作り直すチャンスだが、

子どもにとって、家族にとってリスクを伴うライフイベント

④育ちの場として生活を形作ることの大切さ

目的

生活をていねいに営む。

あたりまえの暮らしを経験する。

大人からふつうの対応をされる。



手段：時間軸に沿った生活

掃除

洗濯

食事の準備や片付け

学習

畑作業

余暇時間の遊び



ポイント

時間に沿った活動と
休むべき時間に休息

清潔感の心地よさ

自分の役割に沿った仕事

わかる楽しさを知る



期待される効果

社会性の伸び

対人関係を作り維持する

ほどほどの自信

心を育む

宮城県児童自立支援施設の課題

①子どもの要因

- 刺激に対する脆弱性
- 集団で誇示したい「強い自分」「ワルな自分」

②職員の要因

- 専門的な知識・経験不足による見立て・判断の未熟さ
- 従事する職員の職種の広がりに伴う従来の父性・母性役割の拡散

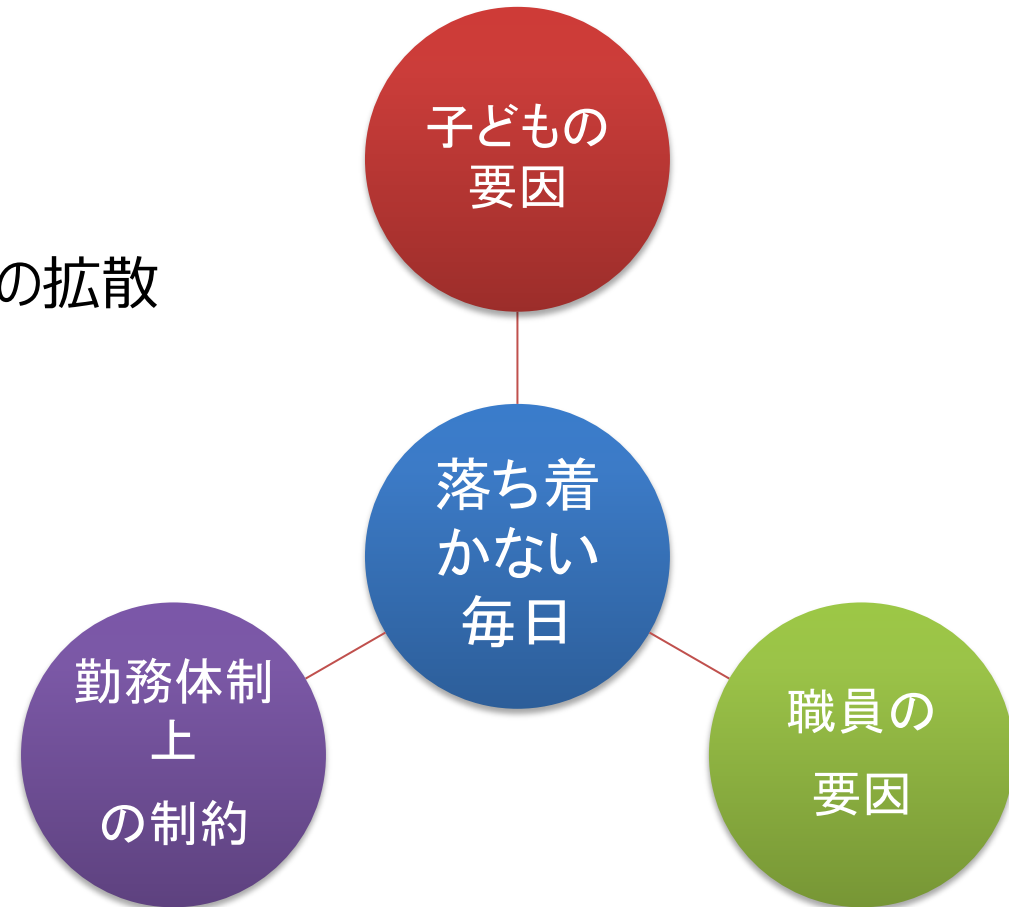
③勤務体制上の制約

- 暮らしているのは子ども。職員配置は毎日入れ替わる。
- ⇒情報共有／支援の一貫性・連続性の作りにくさ

目前の問題の対応に追われ

⇒「日常生活」を作り、維持させることの困難さ

⇒PDCAの作りにくさ



事例(男児A 中1の1月に入所。現在中2)

①子どもの特徴

入所理由:

入所理由にかかわる情報:

発達上の特徴:

性格上の特徴:

②「問題」行動の構造

【表立った問題行動】

窃盗・嘘・暴力

【背景にある要因】

さまざまな家族の問題

子どもの発達障害

③入所理由と関連した日常生活上の問題

【ADLの低さ】

清潔感を欠いた身体・服装

【盗みが見つかりにくい環境】

ゴミだらけの机周り

なくし物の多さ

自他の持ち物の区別のなさ



職員から叱責

他児童から
非難



職員への
反抗・暴言

児童からの
信用のなさ
ゆえの孤立



上がらない
自己評価

辛辣な他者
評価

④対応 毎日整頓する習慣作り

問題点

【ADLの低さ】

清潔感を欠いた
身体・服装

【盗みが見つかり
にくい環境】

ゴミだらけの
机周り

なくし物の多さ

自他の持ち物の区
別のなさ

対応

①整理整頓
チェックファ
イルを準備

②決まった
時間に職員
がチェック

③評価

問題点

①Aから依
頼がない。

②担当職
員が公休
の日は
チェックを
忘れがち。

改善策

①スケジュー
ルをAの机の上
に貼った。

②その日の遅
番職員がチェッ
クすることに決
めた。

成果

【整理整頓ができる】

Aの自意識の変化
家族にも見える変化

【自分の持ち物と他人
の持ち物の区別】

窃盗の抑制

職員が交代してもで
きる仕組み

色々な職員の見守り

まとめ 児童自立支援施設の今後に向けて

マンパワーの充実

- 子どもの人生に関わる支援⇒手をかけ時間をかけなければならない事柄の多さ
- 子どもの日常生活を作り、維持する努力～事務室でPDCAを行うための努力
- 職員の時間外勤務により維持される支援

専門性の向上

- 問題の構造を見立て、対応策を考える知識・経験の必要性
- 目前の問題の対応に追われる毎日
- 若手職員の自己研鑽の機会
- SV体制の構築

職員が安全に働き、支援の質が向上する職場環境の保障を